

いずみさの昔と今 第266回

「泉佐野と漁業」

前回に引き続き、漁業に注目し、近代における泉佐野の漁法について紹介いたします。

泉佐野市は、ひとつの漁業地区として計上されていますが、実際には2つの漁協（泉佐野漁協・北中通漁協）が存在しています。前者は旧佐野町域在住の漁業者、後者は旧北中通村の漁業者で組織されています。漁業種類についても泉佐野は小型機船底引き網漁を主力としていたのに対し、北中通は鰯巾着網漁からの転換を含む機船船引網漁を特徴としました。

泉佐野での小型機船底引き網漁は、大別すると石桁網を使用する漁法と板引網を使用する漁法になります。前者は石製の重りをつけた桁を、後者は曳網に開口板を使用するもので和歌山方面から伝わったとされています。両者は、使用する漁船のトン数（10t未満）・出力（15馬力以下）・人員（2、3人）についてはほぼ同様ですが、漁獲物や漁期に違いがあります。

石桁網漁は、底棲性水産物を中心にした類、ジャコ、シヤコなどを獲り、板引網漁では、季節ごとにアカシタ、カニ、ノボリダイ、チヌ、アジなどを獲ります。

これに対して、北中通では、

ばっち網と呼ばれる機船船引網漁が行われています。こちらは、袋状の網具を動力漁船で曳航して水産生物を捕獲する漁法です。

漁船は、魚探船兼運搬船1隻と網船2隻の3隻で1統を構成し、網船は10t未満、35馬力以下のものと定められています。人員については各船の船長各1人、投網などの作業を行う2人です。主に漁獲対象とされるものはイカナゴシラス、イワシシラスなどであり、底棲性の水産物は漁獲対象としません。この漁法自体は比較的历史が浅く、北中通では昭和43（1968）年にはじめて行われました。大阪府では、大阪府漁業調整規則により禁止漁業とされてきましたが、同規則の改正により操業が可能となりました。

このほか、泉佐野市域では、刺網漁業やアナゴかご漁業なども行われています。

刺網漁業は、建網とよばれる固定式の刺網を海中に敷設し、水産生物を絡め取る方法で、主にカレイを漁獲対象としています。漁場は、泉佐野より500〜800m沖、水深8〜9mの海域で、小型動力漁船1隻を使用し、行われます。

また、アナゴかご漁業については、せん漁業の一種であり、海中に敷設したかごに入った水産生物を捕獲します。基本的に動力漁船1隻に1人程度で行われます。かごにはイワシなどを入れて使用します。

以上、泉佐野の近代漁法を紹介しました。1つの市に2つの漁業協同組合を有し、多種多様な漁法を行う地域はあまりありません。これらの漁法に使用した道具や歴史については、歴史館いずみさにて現在開催中の冬季企画展「昔の道具展〜漁具とくらし〜」（3月25日(日)まで）で展示しています。



▲近代の漁港の様子

レイクアルスタープラザ・カワサキ歴史館いずみさの
☎469-7140 Fax469-7141
休館日 月曜日、祝日（祝日が月曜日の場合は月曜日と火曜日が休館）
開館時間 午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）
入館料 無料

消費生活センターにより

見守りリー
相談受付 午前9時～午後4時30分
南海線「泉佐野」駅前 ☎469-2240
相談はお早めにセンターへ!!

クレジットカードのリボ払いに気を付けて

【解説】リボ払いは、クレジット会社への支払い残高を毎月定額で返済していく方法です。支払い残高がある限り支払いは続きます。

続けて商品を購入していくと、どの商品の支払いが終わったのかわからず、金利手数料がかかるので返済額が大きくなってしまいます。リボ払いで返済の先送りを続けていくと、金利手数料が膨れ上がり、自己破産に陥る可能性があります。

クレジットの支払い方法はいくつか種類があります。

- 1回払い
 - 2回払い
 - 分割払い（分割できる回数はいくつか種類があります）
 - リボ払い（毎月定額払い）
 - ポーナス払い
 - フレックス払い（リボ払い＋繰り上げ返済自由）
- ※クレジット会社により金利手数料の有無は異なります。

クレジットカードには、その時にお金が無くて買いたい物があるメリットがありますが、その分借金をしていることと同じなので注意が必要です。

高額なものを購入する時は、返済できるかを考えて、自分に合った返済方法を選びましょう。

困ったときは、お気軽に消費生活センターに相談してください。